

平成30年度第3回行政改革推進委員会議事録

総合企画部人事課

- 1 **開催日時** 平成30年11月5日(月) 午後3時30分～4時55分
- 2 **場 所** 柏崎市役所本館4階 大会議室
- 3 **出席者**
 - 行政改革推進委員 10名(五十音順)
石坂委員長、川瀬委員、小林委員、品田委員、高橋委員、土田委員、
中村委員、中山委員、西巻委員、村田委員
 - 櫻井市長
 - 事務局 6名
柴野総合企画部長、飛田人事課長、宮川人事課長代理、
平田人材厚生係長、星野業務改善係長、村山主査

4 概 要

事業峻別の市長評価結果、第二次行政経営プラン(平成29年度～平成31年度)の平成30年度の進捗状況(中間)及び今後の行政経営プランの在り方について、それぞれ報告、質疑、意見交換等を行った。

5 委員会要旨

(1) 開会

(櫻井市長挨拶)

行政改革推進委員の皆様からは、忙しい中、第二次行政経営プランの進捗管理や事業峻別に対し、評価していただき、感謝申し上げます。

全国的に少子高齢化、人口流出の問題があり、また、当市においては中越沖地震による影響もあり、市の財政面で非常に苦しいところがある事実を受け、行政がどのような事業を優先的に為すべきことかを判断するため、事業峻別に取り組んできた。

今年度の外部評価においては、4グループについて、皆様からの御意見を頂戴した。その報告も委員長から頂き、おおむね皆様から御理解していただいたと認識している。

(石坂委員長挨拶)

全ての委員、また、公務多忙の中、市長からも出席していただき感謝申し上げます。

今年度の外部評価は毎年の内容とは異なり、事業評価から施策評価という、1つ段階が上がった形で、私も含め、皆様から実施していただいた。

事業評価を行う中で、市の職員の意識も従来と違うように感じた。

事業の意義については、市長からも話があったが、単に経費削減という観点にとどまらず、未来への投資の準備であるとも思った。

取組が初めてのことであり、委員の皆様も戸惑いがあったと思う。

(2) 議事

ア 事業峻別の市長評価結果について

《市長から説明》

概要

事業峻別の対象は849事業であり、評価結果は、廃止が24事業、休止が2事業、一部見直しが76事業である。

手法としては、各部署から提出されたシートを基に、23回のヒアリングを実施し、事業の評価を実施した。

今回は仕事の見直しを行い、平成30年度当初予算ベースで約2億円を削減した。私自身、更に見直しができると感じた一方で、市民ニーズもあり見直しができない事業があることも認識した。そういった意味では、自身の意識を喚起することができ、また、職員の業務に対する意識を喚起することができたと思う。

事業峻別の目的としては、1つは高齢化への対策、具体的には、介護人材の確保である。もう1つは、地域エネルギー会社の設立の準備、具体的には洋上風力や蓄電池の安定化等への投資である。

《委員から感想等の発表》

委員 分からない分野もあったが、関係する分野も含め、自分の意見は言えたのではないかなと思う。

介護・福祉分野について、柏崎市には民間の進出がない、施設ができないという課題がある中、市長から言及があったことで、期待をしたと思う。

委員 事業峻別の取組には非常にエネルギーが使われたと思う。

今の時代は改革について、積極的に考えていかなければ衰退をしていく。それぞれの立場はあるにせよ、市民サービスの向上について、改めて考える良い機会になったのではないかな。

委員 行政は、事業の継続性を重視する印象がある。始めることは簡単であるが、止めることは非常に難しい。また、1人でも要望があれば、事業を簡単に止めるわけにはいかないと思う。

市長も立場上難しいところがあると思うが、将来のために頑張っていたきたい。

委員 多くの職員を巻き込んでいくことは大切である。

率直な印象として、時間的な制約等はあったと思うが、来年度はもう少し丁寧な運営を心掛けていただくようお願いしたい。

また、事業の担当課評価の記載について、本来の目的から見て進捗状況はどうかという観点が反映されていないように感じる。職員は作成後に、改めて確認したほうが良いと思う。

委員 昨年度までの外部評価とは異なる緊張感を、評価していて感じた。職員もそうだったのではないだろうか。

今後、新年度予算編成の作業の中で、今回の外部評価や事業峻別の結果がどのようなになるか、注目したい。

- 委員 事前に配布された資料を拝見し、委員としても構える部分があったが、やはり職員も同じであったのではないだろうか。
外部評価について、今回のように事業をグループ化して実施する手法は良かったと思う。また、今年度は、市長が提示した中から選択する形で、外部評価の対象グループを選定したが、来年度は委員から提案できると、なお良いのではないかと感じた。
- 委員 1 市民として、今後も頑張っていきたい。
- 委員 景観計画の策定委員として活動をしてきたが、現在の指定地域が適切であるか、私も同じ疑問を持っていた。市内には多くの保全すべき景観があると思うが、地元よりも市外の方がよく知っている。PRの方法を工夫するとよいと思う。
また、柏崎学の廃止とあるが、これはどういったことか。小学生のキャリア教育を止めるということか。
- 市長 事業内容がいわゆるキャリア教育であり、それを柏崎学と言って予算化していることが問題ということである。来年度予算では名称を変更させる。事業そのものを廃止するつもりではない。
柏崎学は、社会科の副読本である「わたしたちの柏崎」をデジタル化するなど、引き続き有効活用していく。
- 委員 新たな切り口からの取組で不安もあるが、一方で職員への意識喚起等、大いに期待する部分もある。
柏崎市は県内では比較的高齢層が多いと言われているが、少子高齢化という流れからは、シルバー世代の活躍という観点も、ビジネス的な視点からは重要となってくる。
- 委員 運営面での意見が出たが、初めての取組であったといえ、私ももう少し慎重に進めるべきではなかったかと感じている。担当課評価の記載内容については、外部評価結果の市長報告の際にも少し話をさせてもらった。
時代の変化に合わせて、公と民の役割は変わっていかなければならないと思う。個人的な意見では、事務局から勉強会などを開催してもらい、行政改革推進委員は、時代の変化に合った知識を持つべきではないだろうか。
- 市長 行政に対する市民ニーズや社会問題は年々増加している。十数年前、引きこもり対策や児童虐待等といった問題は、行政がすべき仕事ではなかった。それが、社会問題となり、行政の仕事として実施しなくてはならないものとなった。
峻別で苦勞して得られた成果が、新年度の予算要望等であつという間に無くなっていくが、来年度も事業峻別の取組は継続する。
皆様からの意見を踏まえ、更に行政改革を進めていきたい。

イ 第二次行政経営プラン平成30年度の進捗状況（中間）について

《事務局から説明》

《質疑なし》

ウ 今後の行政経営プランの在り方について

《事務局から説明》

《質疑なし》

(3) その他

事務局 第二次行政経営プラン平成30年度の進捗状況（中間）について及び今後の行政経営プランの在り方については、持ち帰って意見が出てくると思われるので、11月16日まで意見を承りたい。意見がある場合は、メール又は郵送で事務局へ連絡願いたい。

今年度の行政改革推進委員会は、今回で終了の予定であるが、年度内に再度開催することもあり得ることを承知いただきたい。

(4) 閉会

（柴野総合企画部長）

市長も申し上げたが、委員の皆様におかれては、御多忙の中、御協力していただき感謝申し上げます。

行政が本来行わなければならない仕事というのは、利益が生じにくい仕事について、市民の皆様の税金をどのように活用していくかが重要である。安易に税金を使って実施することなく、無駄を削ぎ落とした上で、何のために実施するかを、職員一人一人が強く認識する必要がある。

次期の行政経営の新しいプランについては、当たり前だと考えられている点が十分ではないという反省を踏まえ、策定を進めたいと考えている。今後も持続可能な柏崎市を作り上げるため、引き続き、皆様からお力を頂戴したい。